

- ヘアセッティングは、オリジナルセット（国家試験課題のオールウェーブセッティングなど）を行い、次にリセット（仕上げ）を行うという2つのプロセスに分けて一つのスタイルを作り上げていく。

○リセットは、コムアウトとよぶ場合が多い。

- ヘアパーティング

『パートをつける』『分けとる』という意味で、スタイル作りの第一段階といえる。

- ヘアシェーピング

『毛髪をとかす』『形づくる』『毛流を整える』などの意味がある。

- ヘアカーリング

目的は、『ウェーブを作る』『毛先の変化と動きを求める』『ボリュームをつくる』

○カール各部の名称

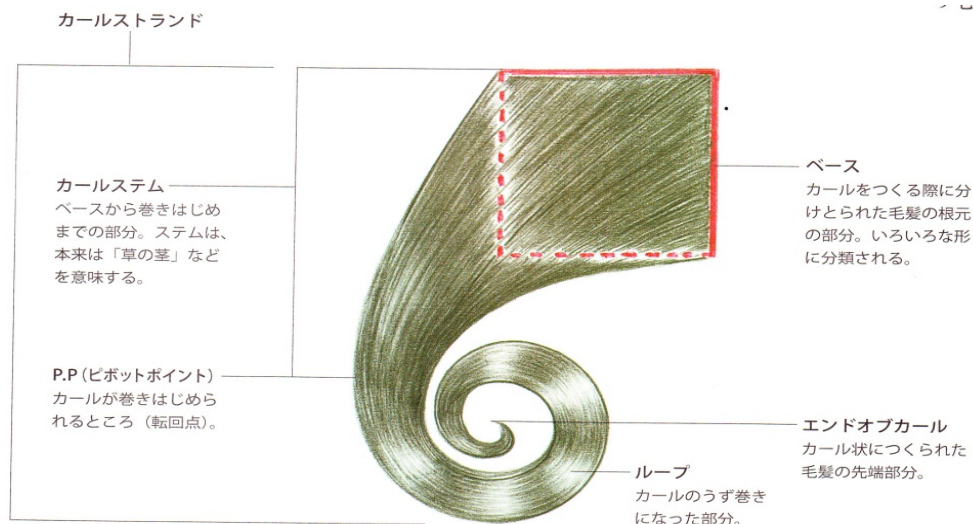
ループ・・・円形に巻かれた輪の部分

ベース・・・カールストランドの根本

ピボットポイント・・・カールに巻き始められる点

カールステム・・・ベースからピボットポイント

エンドオブカール・・・カールの毛先

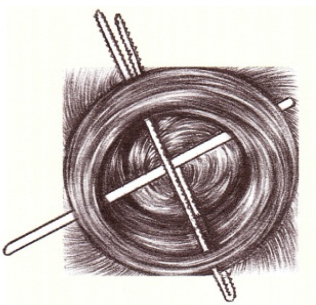


○カールの分類

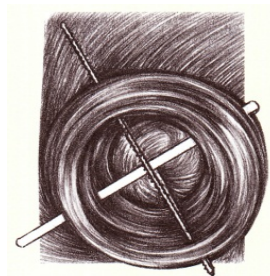
- ストランドカール・・・カールを巻く際にベースを一定の形や大きさにとってつくるカール。
- シェーピングカール・・・ベースの底辺だけをスライスしてつくるカール。
- フラットカール・・・頭皮に平らに付くようになるカール
- スタンドアップカール・・・ループが頭皮に対して立ち上がっているカール  
(スタンドアップカール・リフトカール・バレルカールの3つのみ！)
- 根本巻き方式・・・根元から巻く。根元に一番強く弾力が得られる。      メイポールカール。
- 中巻き方式・・・中間から巻く。中間に最も弾力が得られる。      スカルプチュアカール。
- 毛先巻き方式・・・毛先がループの一番中におさめられる。毛先に最も弾力が得られる。クロッキノールカール
- フォアードカール・・・耳介に沿って巻かれたものをいう。
- リバースカール・・・フォアードカールと正反対に巻かれたものをいう。
- クロックワイズワインドカール・・・毛髪が右巻き（時計の針の進む方向）に巻かれたもの
- カウンター・クロックワイズワインドカール・・・毛髪が左巻き（時計の針の進み方とは逆方向）に巻かれたもの

○ベースの種類

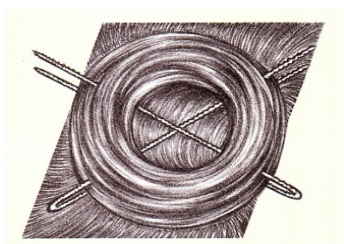
- ・スクエアベース・・・平均したカールやウェーブを出す  
(正方形)



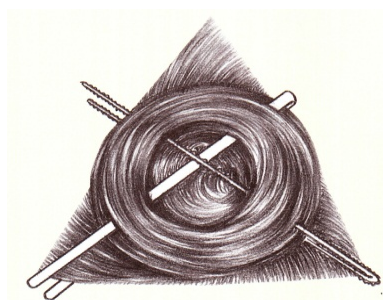
- ・オブロングベース・・・ステムが長く、方向が決めやすい  
(長方形)



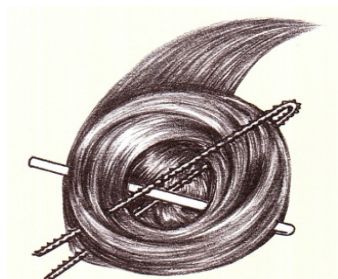
- ・パラレログラムベース・・・ステムをオーバーラップさせやすく  
仕上がりが割れにくい  
(平行四辺形)



- ・トライアングュラーベース・・・コムアウトした際、割れ目ができない。額の生え際などに用いられる  
(三角形)



- ・アークベース・・・コムアウトで放射状の広がり  
を表現するときに用いられる。  
(弧状)



○ステムの方向と角度

ストランドでカールを巻くとき、ステムの方向は毛髪の流れ（ムーブメント）を左右し、  
角度は仕上がりの時のボリュームに関係する。

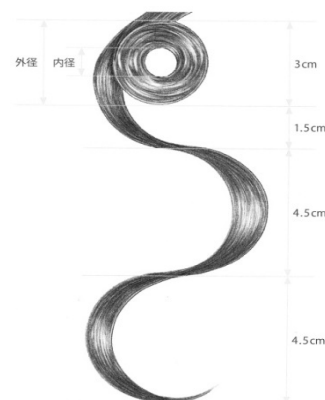
○テンション

緊張力を加えることでカールの弾力が増し、ヘアスタイルを長持ちさせることができる。

○ループの大きさ

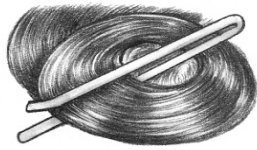
- ・直径3cmのカールをほどくと直径4、5cmのハーフウェーブが得られる  
(外径)

カールの直径の1.5倍のハーフウェーブ

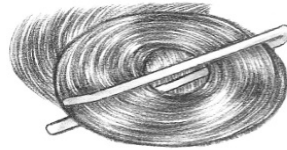


○カールピンニング

片面打ち



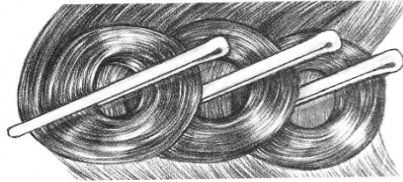
両面打ち



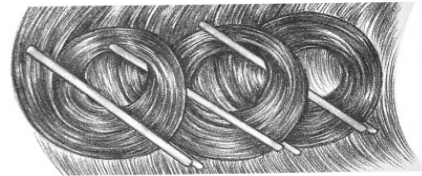
水平うち



オープン打ち



クローズ打ち



※ループにゆがみを作らない

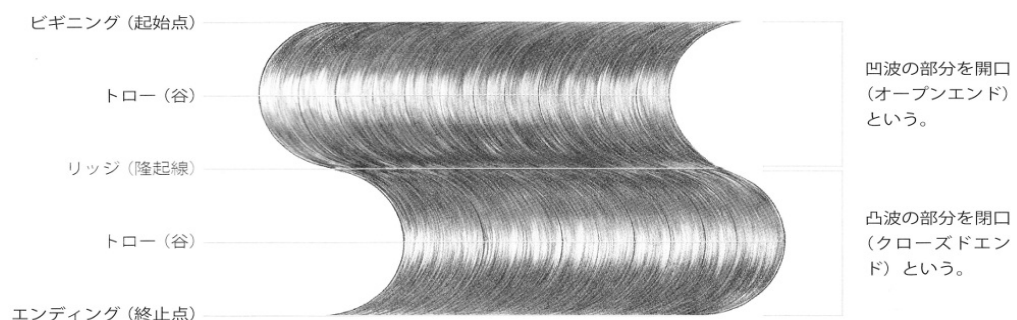
※ピンニングの際は、ピンやクリップの先で止める

○ピンカール別のピンニング

- ・スカルプチュアカール・・・・・・・・左巻きは右からのオープン打ちが基本であるが、  
反対からでも構わない。片面打ち
- ・メイポールカール・・・・・・・・ステムの方向に対して直角に、ステムとループの下の面をしっかり止める。  
これに交差させて、オニピンでループの形を崩さないようにクロスピンニングする。
- ・リフトカール・・・・・・・・斜め上からステムの毛髪を少しすくい、ステムを崩さないようにループの片面をとめる。  
右からでも左からでもどちらからでもよい。  
ループがスライス線より下にずれないように注意することが大切。
- ・クロッキノールカール  
毛量の多い場合・・・・・・・・ループの下側を両面打ち  
毛量の少ない場合・・・・スカルプチュアカールの要領で片面打ち
- ・スタンドアップカール・・・・・・・・カールが目的の方向を向くよう、ステムの方向に対して直角に、水平うち。

●ヘアウェーピング

○ヘアウェーブの名称



※ビギニングからエンディングまでをフルウェーブとよぶ。

○カールウェーブ

求めるウェーブ幅が3cmの場合、ループの直径は2cmとなる。

※スライス線・・・・・・・・・・ウェーブ幅の1/2

ループの直径・・・・・・・・・・ウェーブ幅の2/3

カールスペース・・・・・・・・・・ウェーブ幅の1/3 (カールスペースは広すぎても狭すぎても毛流は綺麗に接続しない。)

○スキップウェーブ

フィンガーウェーブとスカルプチュアカールが交互に配置されたものをいう。

※ウェーブ幅を3cmとしたときに、ループの直径は2cmとなり、カールスペース分1cmは下の

フィンガーウェーブに加わる。そのためフィンガーウェーブの幅は、ちょうどカール2個分の4cm幅になる。

○ターンステム

1つのムーブメントを、巻く向きが同じ2つ(2段)以上のピンカールで、構成するものをいう。

※カールスペースを作らないことが大切!!

●ローラーカーリング

○ベースの幅と厚さ

基本的なベースの幅・・・・・・・・・・ローラーの長さの約90%

基本的なベースの厚さ(スライス幅)・・・・・・・・・・ローラーの直径と同じ

○ストランドの角度によるボリュームの変化

135度の場合・・・・・・・・・・最もボリュームが出る。頭頂部などに用いられる。オンベース

90度の場合・・・・・・・・・・1/2オフベースとなる。

45度の場合・・・・・・・・・・ステムが長くなるため、ロングステムローラーカールとよばれる。オフベース  
ボリュームは小さくなる。

○ローラーの大きさとループの大きさ

ローラーの直径の2倍程度のウェーブ幅になる。

(ピンカールの場合はループの外径の1、5倍のウェーブ幅となる)

●ブロードライ

目的・・・・・・・・・・毛髪につやをあたえ、ストレートにのばす。

くせ毛やパーマウェーブの毛髪をストレートにのばす

デザインにより、目的をもった方向付けができる

毛先の方向を内側に巻きこんだり、外側に跳ねさせたり

○ブロードライスタイリングの基礎技術

・毛流に沿ってラインを作り出すときは目の粗いもの、テンションを加えたいときは目の密なものを使用する。

・毛髪に湿り気がありすぎると効率が悪くなるので、ブロードライスタイリングの最初の過程は、毛髪全体を生乾きの状態にすることである。

・オーバードライになる少し前に形づけ、最後に冷風を当てて毛髪の熱を奪うことによって、形を固定させることが大切である。

○ブラシの種類とプロセスに合わせた選定

・スケルトンブラシ・・・・・・・・・・毛髪を乾かすときに使う。テンションがかからないため、パーマやカットによる毛髪の流れをいかしながら、自然にブローする際に役立つ。

・ハーフラウンドブラシ・・・・・・・・・・毛髪をストレートにのばしたり、ボリュームを出したいときに使う。  
自然な流れを出すことができる。

・ロールブラシ・・・・・・・・・・毛髪をストレートにのばすとき、ハーフラウンドブラシよりもテンションを加える事ができる。内巻き外巻きの動きをつけることができ、よりボリュームを出せる。

○ブロードライイングのポイント

- ・フェイスライン、耳のまわり、襟足などから乾かす。
- ・風の吹き出し口は、必ず頭皮から毛先の方向へ向け、乾いた毛髪が乱れ飛ばないようにする。
- ・温風はひとところに長くあてない

○ハンドドライヤーとブラシの基本操作

- ・ストレートな毛流をつくる場合・・・・・・・・根元からストレートになるように一定のテンションを加えながら、  
ブラシスルーを繰り返して行う。
- ・根元の立ち上がりをつける場合・・・・・・・・ブラシをできるだけ毛束の根元の部分に入れてブローする。  
ブラシはベースの上で回転させ、根元にテンションを加える。
- ・毛流を方向付ける場合・・・・・・・・ブラシの背でテンションを加えてカーブラインを出しつつ毛先に引く。
- ・毛先に丸みをつける場合・・・・・・・・巻き込んだ毛髪の表と裏から温風をあて、毛先にテンションを加える。

●バックコーミング

一つの毛束にコームを使い、毛先から根元に向かって毛髪をとかず（逆毛を立てる）。

目的・・・・・・・・ボリュームを求める

シルエットや流れを固定し、デザインを保つ

毛髪に自在感をあたえ、コームアウトを容易にする

○基本的な技術

コームの歯を使うバックコーミングは、できるだけ小さいストロークで行うことがポイントになる。

●ウィッグとヘアピース

○ウィッグ・・・・・・・・全かつらともいわれ、一般的には頭部全体を覆うようにつくられた帽子状のものをいう。

○ヘアピース・・・・・・・・ヘアピースには、頭部の一部を覆うもの、ヘアスタイルの補助的なパーツとして使うものがある。

ポスティッシュともよぶ。

○手入れ法

不用意にブラッシングしたりコーミングしたりすると、もつれや脱毛、切れ毛などの原因になるので、毛先の方から徐々に根元の方へと丁寧に扱うこと。

## ●ヘアカラーの種類

## ①永久染毛剤（パーマネントヘアカラー）

染毛成分がキューティクル（毛小皮）及び毛皮質の奥深くまで浸透し、化学的に固着するため長期にわたって染毛効果が持続するものである。

## 酸化染毛剤

- ・アルカリ性タイプ・・・1剤 → 酸化染料、アルカリ剤  
2剤 → 過酸化水素水
- ・中性タイプ・・・1剤 → 酸化染料  
2剤 → 過酸化水素水

- ・現在、世界的に最も広く使用されている。
- ・いったん染まると色持ちが2～3ヶ月と長期的に持続する。
- ・酸化染料がかぶれることがあるので、使用前には必ずパッチテストが必要！
- ・黒色の毛髪を明るい色に染毛することも出来る
- ・染めた後、毛髪の手入れが十分でない場合、毛髪を傷めるおそれがある

## ②脱色剤・脱染剤（ヘアブリーチ・ヘアライトナー）

- 1剤 → アルカリ剤
- 2剤 → 過酸化水素水

## 脱色剤

- ・毛髪のメラニン色素を脱色するものをいう
- ・酸化染料が入っていないため、かぶれを起こすことはほとんどないが、刺激が強いため炎症を起こす恐れがある

## 脱染剤

- ・パウダーブリーチに含まれる過硫酸塩により染毛した毛髪の染料を壊し脱染するものをいう
- ・過硫酸塩は水に溶解すると分解するため使用直前に2剤と混合し使用すること
- ・酸化染毛剤などによって、黒く（濃く）染められた毛髪の色を完全に脱染することは困難である

## ③半永久染毛料（セミパーマネントヘアカラー）

酸化染料がキューティクル（毛小皮）と毛皮質の浅いところまで浸透して染まる

- ・酸性カラー、ヘアマニキュア、カラーリンス、カラートリートメントがこれにあたる
- ・かぶれ、毛髪の痛みがほとんどない
- ・色持ちが約2～4週間
- ・シャンプーのたびに少しずつ色落ちしていく
- ・黒色の毛髪を明るい色にはできない（メラニン色素は脱色されない）
- ・汗で色落ちしやすい。
- ・皮膚に染まりやすく、付くと取れにくいことがある

## ④一時着色料（テンポラリーヘアカラー）

一時的に毛髪の表面のみに色素を着色するものをいう

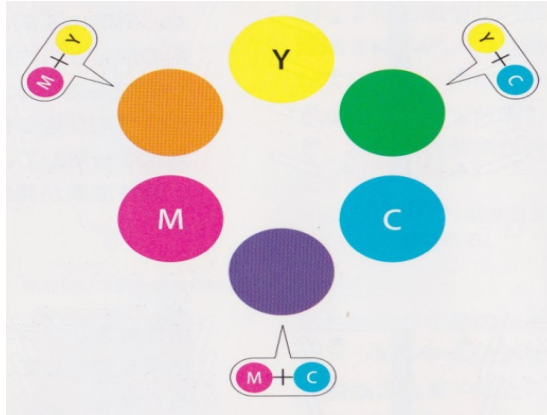
- ・一度のシャンプーで色が落ちる
- ・手軽に使用できる
- ・かぶれ、毛髪の傷みはほとんどない
- ・汗などには比較的強い

⑤その他

『植物性染毛料』と『金属性染毛料』がある。 現在ではあまり使用されない。

●ヘアカラーの色選び

カラーサークル



☆お互いの対極にある色どうしを補色の関係という

例1 黄色っぽくなった毛髪の黄を生かして、だいたい系の毛髪の色に仕上げたい時。

黄色 + ?色 = だいたい色

答え 赤

例2 赤味のある毛髪の色を消して、ナチュラルな毛髪の色に仕上げたい時。

赤色 + ?色 = ナチュラル

答え 緑

●毛髪診断

染まりやすい毛質・・・明るい、乾燥毛、損傷気味、細い、軟毛、少ない

染まりにくい毛質・・・暗い、脂性毛、健康、太い、硬毛、多い

赤み系が出やすい毛質（明るくなりにくい）・・・太い、硬い、撥水性、地毛の色が黒い

黄み系が出やすい毛質（明るくなりやすい）・・・細い、柔らかい、吸水性、地毛の色が明るい

毛髪の下地となる色みをアンダートーンという。

●パッチテスト（染毛剤によるアレルギーの有無を確認するためのチェック）

施術前には毎回、必ずパッチテストを行うようにする。

- ① 1 剤と 2 剤を指定の割合で取り出す。
- ② 1 剤と 2 剤を混ぜ、テスト液を作る。
- ③ テスト液を綿棒にとり、腕の内側に 10 円硬貨大に薄く塗って自然乾燥
- ④ そのまま 4 8 時間放置する。（塗布後 30 分くらいと 4 8 時間の 2 回は必ず観察する。）

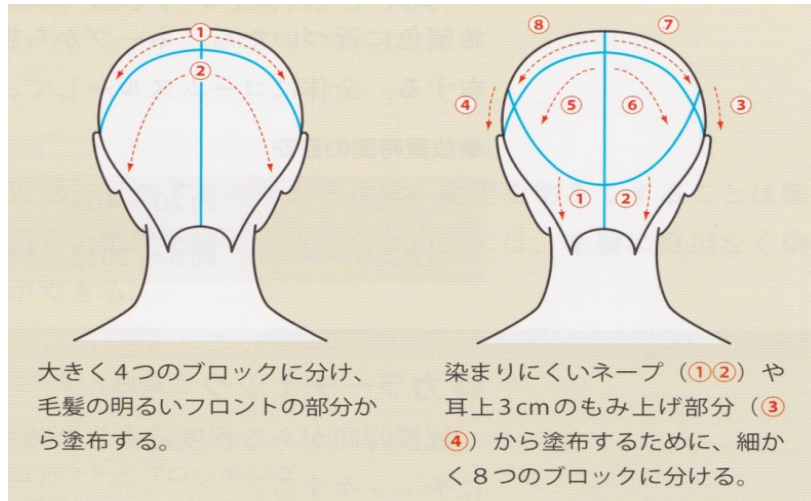
塗布部に発疹・発赤・かゆみ・水泡・刺激など異常があった場合は ⇒

こすらないで、すぐに洗い落とし染毛はしない。

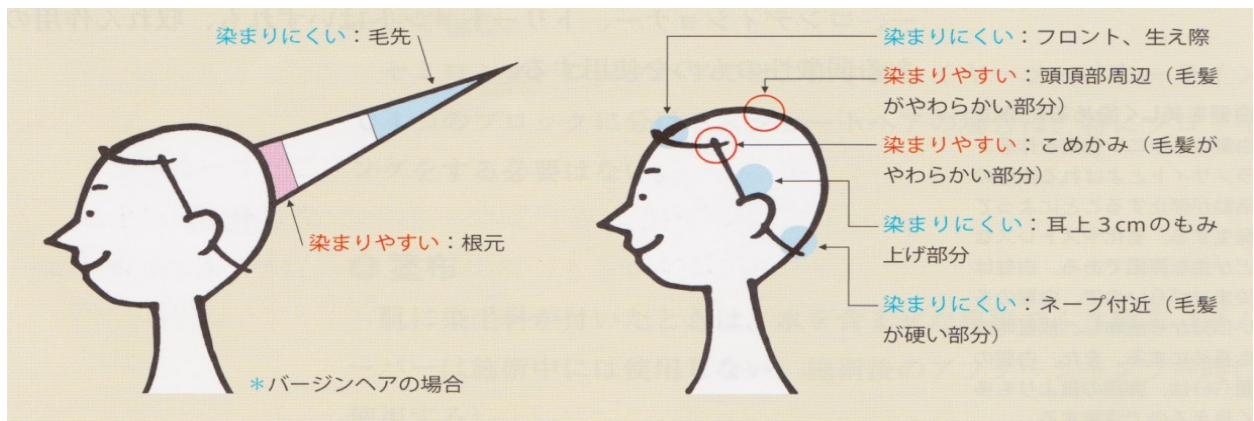
●ブロッキングと塗布順

全体を暗くする

全体を明るくする



●部位による染まりやすさ



○毛髪には染まりやすいところと染まりにくいところがあるので、塗布する順序や塗布量で調節する。  
(通常、ドライヘアに塗布する)

○バージンヘアやおしゃれ染めの場合の塗布の仕方

- ①中間部と毛先を塗布、一定時間放置する。
- ↓
- ②中間部、毛先ともに希望色に近づいたら、  
ネープから根元部分に塗布を始め、全体に塗布する
- ↓
- ③全体にコームスルーして、再び放置

※放置時間の目安      ヘアカラー・・・約20～40分

●カラーチェック

放置時間がある程度経過した時点で、発色の状態を確認するためにチェックする。

●乳化

少量の水分を毛髪に加え乳化することにより、肌が付いた染毛剤を取り除くことができる。

●シャンプー・コンディショナー・トリートメント

- ・シャンプーは通常よりぬるめのお湯で、色が出なくなるまで洗い流す。
- ・ヘアカラー施術により毛髪は膨潤しているため、シャンプー・コンディショナー・トリートメントはいずれも収れん作用のある弱酸性のものを使用する。

●酸性染毛料

毛髪を明るくすることは難しいが、  
明るい毛髪を暗くする場合と、白髪には毛髪に負担なく染めることができる。

※施術前に必ずシャンプーをする！

汚れやスタイリング剤をよく洗い落とさないと、染毛料の先着を低下させる。

◎加温放置または常温放置

塗布した染毛料が乾くと、色が入りづらくなるので、乾燥しないよう注意！（ラップやキャップ）

放置時間・・・約15分

（加温する場合は、遠赤外線で40°C前後）

※染まりにくいフェイスラインや白髪の多い部分は、カラーチェック後再塗布し、5～10分再放置



◎クーリング

加温タイプのみ、約5分間クーリングする。

（加温して開いているキューティクルを閉じて、染毛料を流れ出にくくする。）

◎シャンプー、コンディショナー、トリートメント

色もちをよくする、酸性染毛料専用のものを使うようにする！